

自 令和6年4月 1日
至 令和7年3月31日

事業報告書

公益社団法人日本将棋連盟
会長 羽生善治

令和6年度 公益社団法人日本将棋連盟

事業報告

〔自 令和6年4月1日～ 至 令和7年3月31日〕

【定款抜粋】

第4条 本連盟は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 棋戦を主催し対局棋譜の提供及び棋戦の解説講評等を行い、将棋の普及啓発を推進する
- (2) 機関誌の定期発行・棋書の随時刊行により、将棋の普及発展を図る
- (3) 全国各地で講習会、大会を開催するとともに、支部等を設置して広域的に事業を展開する
- (4) 国際的な対局の開催や国際大会の支援を通じて、将棋文化を世界に発信する
- (5) セミナー・育成等の修練の場として将棋会館を設立し、一般への施設貸与にも供することにより広く棋道の発展を図る
- (6) 専門棋士を全国各地及び海外へ派遣し、将棋の拡大発展を図る
- (7) 各文化団体と連携を図り、日本固有の文化を継承発展させる活動に寄与する
- (8) 学校教育の場において将棋の普及啓発が図られるための活動を推進する
- (9) アマチュア段級位制度を通じて、将棋の普及啓発を図るため免状、認定状等を発行、交付する
- (10) その他本連盟の目的を達成するため必要な事業

定款 第4条（1）項に関する事業報告…1. 事業（1）棋戦事業

1. 竜王戦（第37期 読売新聞社）

- （1）現役棋士と女流棋士4名・奨励会三段1名・アマチュア4名の計182名が参加して、1～6組に分かれてトーナメント戦（ランキング戦）を行なった。
- （2）各クラスからの優秀成績者11名による決勝トーナメントを行ない、佐々木勇気八段が挑戦者となった。
- （3）藤井聡太竜王と挑戦者佐々木勇気八段との間で七番勝負が行なわれ、4勝2敗で藤井聡太竜王がタイトルを防衛した。
- （4）ライブでネット配信された対局があった。
＜七番勝負が行なわれた期間 10月～12月＞

2. 名人戦（第82期 朝日新聞社・毎日新聞社）

- （1）A級・B級1組・B級2組・C級1組・C級2組に137名が参加し、豊島将之九段がA級の最高成績者となり、名人への挑戦者となった。
- （2）藤井聡太名人と挑戦者豊島将之九段との間で七番勝負が行なわれ、4勝1敗で藤井聡太名人がタイトルを防衛し、第82期名人となった。
- （3）ライブでネット配信された対局があった。
＜七番勝負が行なわれた期間 4月～6月＞

3. 伊藤園お〜いお茶王位戦（第65期 新聞三社連合）

- （1）シード者以外の現役棋士と女流棋士2名の計167名が参加して、トーナメント形式による予選を行なった。
- （2）シード者4名、予選通過者8名の計12名が紅白2組に分かれて総当たりのリーグ戦を行ない、紅白各組の最高成績者による挑戦者決定戦を行ない、渡辺明九段が挑戦者となった。
- （3）藤井聡太王位と渡辺明九段との間で七番勝負が行なわれ、4勝1敗で藤井聡太王位がタイトルを防衛した。
- （4）ライブでネット配信された対局があった。
＜七番勝負が行なわれた期間 7月～8月＞

4. 叡王戦（第9期 不二家）

- （1）シード者以外の現役棋士計165名が参加して、トーナメント形式による段位別予選を行なった。
- （2）シード者4名と予選通過者12名の計16名による本戦トーナメント戦を行ない、伊藤匠七段が挑戦者となった。
- （3）藤井聡太叡王と伊藤匠七段との間で五番勝負が行なわれ、3勝2敗で伊藤匠七段がタイトルを奪取した。
- （4）ライブでネット配信された対局があった。
＜五番勝負が行なわれた期間 4月～6月＞

5. 王座戦（第72期 日本経済新聞社）

- （1）シード者以外の現役棋士と女流棋士4名の計170名が参加して、トーナメント形式による一次予選・二次予選を行なった。
- （2）シード者4名と予選通過者12名の計16名による挑戦者決定トーナメント戦を行ない、永瀬拓矢九段が挑戦者となった。
- （3）藤井聡太王座と永瀬拓矢九段との間で五番勝負が行なわれ、3連勝で藤井聡太王座がタイトルを防衛した。
- （4）ライブでネット配信された対局があった。

＜五番勝負が行なわれた期間 9月～10月＞

6. 棋王戦コナミグループ杯（第50期 共同通信社）

- （1）シード者以外の現役棋士と女流棋士1名・アマチュア1名の計149名が参加して、トーナメント形式による予選を行なった。
- （2）シード者25名と予選通過者8名の計33名による挑戦者決定トーナメント戦を行ない、増田康宏八段が挑戦者となった。（敗者復活戦を併用）。
- （3）藤井聡太棋王と増田康宏八段との間で五番勝負が行なわれ、3連勝で藤井聡太棋王がタイトルを防衛した。
- （4）ライブでネット配信された対局があった。

＜五番勝負が行なわれた期間 2月～3月＞

7. ALSOK 杯王将戦（第74期 毎日新聞社・スポーツニッポン新聞社）

- （1）シード者以外の現役棋士168名が参加して、トーナメント形式による一次予選・二次予選を行なった。
- （2）シード者4名、予選通過者3名の計7名で総当たりのリーグ戦を行ない、最高成績者の永瀬拓矢九段が挑戦者となった。
- （3）藤井聡太王将と永瀬拓矢九段との間で七番勝負が行なわれ、4勝1敗で藤井聡太王将がタイトルを防衛した。
- （4）ライブでネット配信された対局があった。

＜七番勝負が行なわれた期間 1月～3月＞

8. ヒューリック杯棋聖戦（第95期 産経新聞社）

- （1）シード者以外の現役棋士と女流棋士2名の計169名が参加して、トーナメント形式による一次予選・二次予選を行なった。
- （2）シード者4名、予選通過者12名の計16名で決勝トーナメントを行ない、山崎隆之八段が挑戦者となった。
- （3）藤井聡太棋聖と山崎隆之八段との間で五番勝負が行なわれ、3連勝で藤井聡太棋聖がタイトルを防衛した。
- （4）ライブでネット配信された対局があった。

＜五番勝負が行なわれた期間 6月～7月＞

9. 朝日杯将棋オープン戦（第18回 朝日新聞社）

- （1）シード者以外の現役棋士と女流棋士3名、アマチュア10名の計176名が参加して、トーナメント形式による一次予選、二次予選を行なった。
- （2）シード者8名と予選通過者8名の計16名による本戦トーナメントを行ない、決勝戦は近藤誠也八段が井田明宏五段を破り、優勝した。準決勝・決勝戦は公開にて対局が行なわれ、ライブでネット配信も行なわれた。

＜準決勝・決勝戦は2月＞

10. 銀河戦（第32期 囲碁将棋チャンネル）

- （1）シード者以外の現役棋士計135名が参加して、予選を行なった。
- （2）シード者35名と予選通過者57名、女流2名、アマチュア2名の計96名をA～Hの8組に分け、勝ち抜き方式による本戦トーナメントを行なった。
- （3）各組の最終勝ち上がり者と最多連勝者の計16名により、決勝トーナメントを行ない、決勝は丸山忠久九段が藤井聡太竜王・名人を破り、優勝した。

＜決勝戦の放映は12月＞

11. NHK杯将棋トーナメント（第74回 日本放送協会）

- （1）シード者以外の現役棋士計142名が参加して、トーナメント形式による予選を行なっ

た。

- (2) シード者 31 名と予選通過者 18 名と女流棋士出場者決定戦通過者 1 名による計 50 名で本戦トーナメントを行ない、決勝戦は藤井聡太竜王・名人が郷田真隆九段を破り、優勝した。

＜決勝戦の放映は 3 月＞

12. 将棋日本シリーズ J T プロ公式戦 2024 (第 45 回 地方新聞 11 社、協賛：日本たばこ産業)

- (1) 前回優勝者と選抜棋士 11 名の計 12 名でトーナメントを行ない、決勝戦は渡辺明九段が広瀬章人九段を破り、優勝した。本棋戦では、全 11 対局を全国の都市で行ない、公開(無料)にて対局を行なった。併せてテーブルマークこども大会を全会場で行なった。
- (2) 全 11 対局は、ライブでネット配信された。

＜決勝戦は 11 月＞

13. 達人戦立川立飛杯 (第 2 回 特別協賛：立飛ホールディングス)

- (1) 50 歳以上 (2024 年 4 月 1 日現在) の現役棋士によるトーナメント形式による予選 (参加 53 名) を行なった。
- (2) シード者 4 名と予選通過者 4 名の計 8 名で本戦を行ない、決勝戦は丸山忠久九段が行方尚史九段を破り、優勝した。
- (3) 本戦は公開にて対局が行なわれ、ライブでネット配信も行なわれた。

＜決勝戦は 11 月＞

14. 新人王戦 (第 55 期 しんぶん赤旗)

- (1) 26 歳以下 (10 月 1 日現在) かつ六段以下 (タイトル戦出場経験者を除く) の現役棋士 17 名、女流棋士 4 名、奨励会三段 18 名、アマチュア 1 名 (赤旗名人戦優勝者) の合計 40 名によるトーナメントを行なった。
- (2) 決勝三番勝負は服部慎一郎六段が高田明浩五段を 2 連勝で破り、優勝した。

＜三番勝負が行なわれた期間 10 月＞

15. 加古川清流戦 (第 14 期 加古川市、公益財団法人加古川市ウェルネス協会)

- (1) 四段棋士と選抜奨励会三段、女流棋士 2 名、アマチュア 3 名の計 40 名でトーナメント戦を行なった。
- (2) 決勝三番勝負は加古川市内で行なわれ、上野裕寿四段が岡部怜央四段を 2 連勝で破り、優勝した。

＜三番勝負が行なわれた期間 11 月＞

16. ABEMA トーナメント (2024 ABEMA)

- (1) タイトル保持者・A 級棋士ら上位棋士 11 名がドラフトで 2 名の棋士を選び、3 名 1 チームを編成した。
- (2) その他、エントリートーナメントを行ない、勝ち上った 3 名の棋士がチームを組み、全 12 チームで予選・決勝トーナメントを実施し、チーム稲葉 (稲葉陽八段・藤本渚五段・上野裕寿四段) が優勝した。
- (3) ライブでネット配信された対局があった。

＜決勝戦の放映は 9 月＞

17. SUNTORY 将棋オールスター東西対抗戦 (2024 サントリー食品インターナショナル)

- (1) 東軍・西軍に分かれて、ファン投票により各 3 名を選出した。
- (2) その他、予選 (エントリー方式) を実施し、東西各 3 名を選出した。
- (3) ファン投票と予選により選出した東軍・西軍各 6 名のチーム編成により、公開で東西対抗戦を実施し、西軍が勝利した (準公式戦)。

(4) ライブでネット配信された対局があった。

＜決勝戦は12月＞

18. ヒューリック杯白玲戦（第4期 ヒューリック）

(1) 第3期女流順位戦の成績により、A級・B級・C級・D級の4クラスに分かれてリーグ戦を行なった。

(2) 西山朋佳白玲と第3期女流順位戦A級で最高成績を収めた福間香奈女流五冠との間で七番勝負が行なわれ、西山朋佳白玲が4勝2敗でタイトルを防衛した。

(3) 七番勝負はリアルタイム中継を行なった。

＜七番勝負が行なわれた期間 8月～10月＞

19. 大成建設杯清麗戦（第6期 大成建設）

(1) 女流棋士74名による予選（2敗失格方式）を行なった。

(2) 予選を勝ち抜いた4名による本戦トーナメントを行ない、加藤桃子女流四段が挑戦者となった。

(3) 福間香奈清麗と加藤桃子女流四段との間で五番勝負が行なわれ、3勝1敗で福間香奈清麗がタイトルを防衛した。

(4) 五番勝負はリアルタイムで中継を行なった。

＜五番勝負が行なわれた期間 7月～8月＞

20. マイナビ女子オープン（第18期 マイナビ）

(1) 前期本戦進出者、予選シード者および予備予選を通過した女流棋士とチャレンジマッチ（アマチュア予選）を通過した計48名で予選を行なった。

(2) シード者4名と予選通過者12名の計16名による本戦トーナメントを行ない、福間香奈女流五冠が挑戦者となった。

(3) 西山朋佳女王と福間香奈女流五冠による五番勝負は2025年4月に開幕し、現在両者による第18期女王のタイトルが争われている。

＜五番勝負が行なわれる期間 4月～6月＞

21. リコー杯女流王座戦（第14期 リコー）

(1) シード者を除くエントリー女流棋士と東日本・西日本アマチュア選抜予選を勝ち上がったアマチュア6名、海外招待選手選抜大会で優勝した海外選手1名の計72名が参加して、トーナメント形式による一次予選・二次予選を行なった。

(2) シード者4名と予選通過者11名と出産育児休業場におけるシード権持ち越しの1名の計16名による本戦トーナメントを行ない、西山朋佳女流三冠が挑戦者となった。

(3) 福間香奈女流王座と西山朋佳女流三冠との間で五番勝負が行なわれ、3連勝で福間香奈女流王座がタイトルを防衛した。

(4) 五番勝負はリアルタイムで中継を行なった。

＜五番勝負が行われた期間 10月～3月＞

22. 岡田美術館杯女流名人戦（第51期 報知新聞社）

(1) シード者以外の女流棋士70名が参加して、トーナメント形式の予選を行なった。

(2) シード者6名、予選通過者4名の計10名で女流名人リーグを行ない、最高成績者の西山朋佳女流三冠が挑戦者となった。

(3) 福間香奈女流名人と西山朋佳女流三冠との間で五番勝負を行なわれ、3勝2敗で福間香奈女流名人がタイトルを防衛した。

(4) 五番勝負はリアルタイムで中継を行なった。

＜五番勝負が行なわれた期間 3月～4月＞

23. 女流王位戦（第35期 新聞三社連合）

- (1) シード者以外の女流棋士 66 名が参加して、トーナメント形式の予選を行なった。
- (2) シード者 6 名、予選通過者 6 名の計 12 名が紅白 2 組に分かれて総当たりのリーグ戦を行ない、紅白各組の最高成績者による挑戦者決定戦を行ない、加藤桃子女流四段が挑戦者となった。
- (3) 福間香奈女流王位と加藤桃子女流四段との間で五番勝負が行なわれ、3 連勝で福間香奈女流王位がタイトルを防衛した。
- (4) ネット配信された対局があった。

＜五番勝負が行なわれた期間 4 月～6 月＞

24. 霧島酒造杯女流王将戦（第 46 期 囲碁将棋チャンネル）

- (1) シード者以外の女流棋士 72 名とアマチュア 5 名の計 77 名が参加して、トーナメント形式の予選を行なった。
- (2) シード者 4 名と予選通過者 12 名の計 16 名で本戦トーナメントを行ない、福間香奈女流五冠が挑戦者となった。
- (3) 西山朋佳女流王将と福間香奈女流五冠との間で三番勝負を行なわれ、2 勝 1 敗で西山朋佳女流王将がタイトルを防衛した。
- (4) (2)(3) はテレビ放映された。

＜三番勝負が行なわれた期間 10 月＞

25. 大山名人杯倉敷藤花戦（第 32 期 倉敷市・倉敷市文化振興財団・山陽新聞社）

- (1) 女流棋士 76 名とアマチュア 2 名の計 78 名が参加して、トーナメントを行ない、伊藤沙恵女流四段が挑戦者となった。
- (2) 福間香奈倉敷藤花と伊藤沙恵女流四段との間で三番勝負が行なわれ、2 連勝で福間香奈倉敷藤花がタイトルを防衛した。
- (3) ネット配信された対局があった。

＜三番勝負が行われる期間 2 月～3 月＞

26. YAMADA 女流チャレンジ杯（第 9 回 ヤマダホールディングス）

⇒実施されなかった。

定款 第 4 条（2）項に関する事業報告…収 1 物品販売、出版、付帯収益事業

1. 月刊「将棋世界」

A5 判、244 頁、付録 1 冊、定価 870 円、毎月 3 日発売

販売：株式会社マイナビ出版

⇒予定通り、刊行した。（但し、定価は令和 5 年 12 月号から 920 円に改定）

2. 「令和 6 年版将棋年鑑」

B5 判、626 頁、定価（本体 4,800 円＋税）、8 月上旬発売、直販品

⇒予定通り、刊行した。（但し、680 頁、定価 4,900 円＋税）

3. 書籍

イ、「新時代の将棋指しー若手棋士インタビュー」将棋書籍編集部 編

四六判、288 頁、定価（本体 1,680 円＋税）

⇒予定通り、刊行した。（但し、344 頁、定価 1,840 円＋税）

他随時刊行、発売

以上、将棋普及を目的とした出版物を刊行した。

定款 第4条（1）項、（4）項、（6）項に関する普及事業報告

…1. 事業（3）普及啓発事業 5）、7）

1. 令和6年度社会福祉活動支援計画

支援対象大会名 第46回全国視覚障害者将棋大会

実施時期 令和6年9月21日（土）

会 場 ほほえみの宿滝の湯（山形県天童市）

⇒大雨警報・土砂災害警報等が出されたため、中止となった。

2. 日本文化紹介事業「海外棋士派遣事業」

派遣先 スペイン・バロセロナ

日 程 令和6年8月1日～4日

派遣者 日本将棋連盟 棋士 近藤正和七段

3. 日中友好文化交流事業「海外棋士派遣事業」

事業名 第7回日中友好青少年将棋大会

日 程 令和6年8月6日

会 場 グランドホテル浜松

派遣者 日本将棋連盟 棋士 青野照市九段・神谷広志八段・所司和晴七段・
片上大輔七段

内 容 中国、日本を対象地域として、小学生から大学生までの青少年の将棋大会を開催。
あわせて派遣棋士による指導対局、講習などを行なった。

主 催 日本将棋連盟

共 催 中国領事館

協 賛 株式会社杏林堂薬局

定款 第4条（3）項、（6）項、（8）項に関する普及開発報告

…1. 事業（3）普及啓発事業 3）、5）

1. 親子ふれあい将棋広場 7月27日 更生保護会館

2. 将棋指導員審査 4月 6日 福島・東京・名古屋・大阪
(3月30日 オンライン)

3. 第56期女流アマ名人戦 11月23日 プラザマーム（東京都）
11月24日 名人戦クラスのベスト8以上
駒テラス西参道（東京都）

4. 第50回「将棋の日」 11月 9日・10日 LINE CUBE SHIBUYA（東京都）

5. 学校へ将棋指導者派遣事業 4月～3月

6. 文部科学大臣杯第20回小・中学校将棋団体戦 8月 9日 サンケイプラザ
⇒以上、実施した。

定款 第4条（3）項、（6）項、（10）項に関する事業報告

…1. 事業（3）普及啓発事業 8）、10）

1. 将棋道場事業

将棋会館(東京)、関西将棋会館(大阪)にて将棋道場営業。

入場者同士の対局による棋力認定や、専門棋士による指導対局を行なった。

2. 北海道将棋道場事業

北海道将棋会館（札幌市）にて将棋道場営業。

北海道支部連合会へ運営を依頼。

入場者同士の対局による棋力認定や、専門棋士による指導対局を行なった。

定款 第4条（4）項に関する国際大会支援事業報告

…1. 事業（3）普及啓発事業 5)

1. 国際将棋フォーラム2024開催

日程 令和6年11月7日～9日

会場 旧将棋会館・新将棋会館・千駄谷小学校

内容 第9回 国際トーナメント

45の国と地域から51名の代表選手が参加。2日間にわたり、予選・決勝トーナメントが行なわれた。

国際将棋道場

外国の方々との交流を目的として、68名が参加されました。

国際オープン大会

外国人の方を対象にした「将棋大会」は61名が参加されました。

指導対局

10名の棋士・女流棋士による指導対局には119名が参加されました。

その他

将棋駒の産地である山形県天童市より駒作りの実演や将棋通訳ボランティア講座が行なわれた。

定款 第4条（5）項に関する事業報告…1. 事業（3）普及啓発事業 8）、10)

1. 東京将棋会館 教室講習

◇ビギナーズセミナー 毎週 火曜日 月4回

◇ナイトビギナーズセミナー 毎週 水曜日 月4回

◇土曜子供入門教室 毎週 土曜日 月4回 初心者から10級まで、小学生

◇師範棋士制度 毎日（土日祝、年末年始を除く）

◇ナイト師範棋士制度 毎週 木曜日 月4回

◇女流棋士レッスン 毎週 月曜日と水曜日の午前中（年末年始除く）

⇒以上、実施した。

◇タイトル戦・主要対局の大盤解説会・他イベントを実施した。

◇子供大会等、各種将棋企画を実施した。

◇年末年始 将棋大会を実施した。

2. 関西将棋会館 教室講習

◇ビギナーズセミナー 土曜日 月2回不定期 一般向け、級位者

⇒実施した。（12月3日関西将棋会館移転後休止）

◇こども将棋スクール 毎週 土・日曜日 月8回 小・中学生向け、級位者

⇒実施した。

◇レディースセミナー 毎週 月曜日 月4回 女性(一般)向け、初級・中級クラス

⇒実施した。

◇タイトル戦・主要対局の大盤解説会

⇒実施した。(一部のみ)

◇夏休み(7～8月)子供大会

⇒実施した。

◇年末年始 将棋大会

⇒実施した。

◇棋士・女流棋士による指導対局(土・日・祝)

⇒実施した。

◇関西将棋会館分校 高槻校 毎週 日曜日 月4回 小・中学生向け、級位者

⇒実施した。(12月3日関西将棋会館移転後、こども将棋スクールと統合)

2. 東西将棋会館で棋具備品の貸し出し

⇒随時、実施した。

定款 第4条(6)項、(10)項に関する事業報告

…1. 事業(3)普及啓発事業(2)、8)

1. 子供将棋スクール 教室講習

◇子供将棋スクール渋谷校 毎週日曜日 小学生

◇子供将棋スクール町田校 毎週日曜日 小学生

◇子供将棋スクール川口校 毎月第2・4日曜日 小学生

◇子供将棋スクール横浜校 毎月第2・4日曜日 小学生

⇒実施した。

2. ヤマダこども将棋教室

◇全国規模のヤマダ電機15店舗で開催

講師は棋士及び将棋指導員、支部役員・会員、将棋指導員補佐

対象は初心～5級、中学生以下

⇒実施した。

定款 第4条(8)項に関する事業報告…収1 物品販売、出版、付帯収益事業

将棋関連商品事業予定

◇将棋盤・駒 高級品・普及品 随時販売した。

◇扇子 名人戦記念 6月発売した

名人位 8月発売した。

竜王戦記念 1月発売した。

竜王位 竜王位の異動がなかったため、前期の扇子を
継続販売した。

タイトル保持者・棋士・女流棋士 随時発売した。

◇カレンダー・将棋手帳 11月発売した。

◇将棋関連書籍・雑誌 随時発売した。

◇他グッズ(文具、雑貨、将棋タオル、大盤セット等) 随時作成した。

◇新商品の開発を行なった。

定款 第4条(9)項に関する事業報告

1. 将棋免状認定

- ◇専門棋士指導による棋力認定
 - ◇棋道正師範・棋道師範・棋道指導員・将棋指導員による棋力認定
 - ◇専門誌紙上検定による棋力認定
 - ◇新聞・雑誌の紙上検定による棋力認定
 - ◇インターネットによる棋力認定
 - ◇テレビによる棋力認定
 - ◇記念認定
 - ◇将棋会館道場認定
 - ◇支部会員認定
- ⇒以上、行なった。

定款 第4条（10）項に関する事業報告・・・1. 事業（3）普及啓発事業 9）、11）

1. 広報活動

- ◇各報道関係者・出版機関に将棋文化の宣伝を行なった。
- ◇会員・棋戦・イベント等の将棋に関する情報を発信した。
- ◇全国各地の公共機関・施設や企業より依頼された将棋イベントや講演等の協力を行なった。
- ◇テレビ・ラジオ番組・映画・WEB（将棋関係）へ資料を提供し、専門棋士の出演や協力、制作の協力を行なった。
- ◇各マスメディアからの取材等の協力を行なった。
- ◇出版社の書籍編集協力をした。ゲームの商品化については、新規に提案がなかったため、行なわなかった。
- ◇将棋対局における記録など資料整備を行なった。
- ◇ホームページ上により将棋の情報を一般の方々に公開した。
- ◇対局を写真撮影してマスコミに貸出を行なった。
- ◇棋士・女流棋士を起用する広告案件の対応と企画を行なった。

2. 電子メディア事業

- ◇日本将棋連盟公式サイト <https://www.shogi.or.jp/>にて将棋関連の情報を配信し、国内・海外への普及振興に努めた。
- ◇モバイルでの棋戦中継事業を実施した。
- ◇インターネット対局サイト「将棋倶楽部24」の運営に協力した。
- ◇社内ネットワークの運用を行なった。
- ◇PC、デジタル機器の資産管理と整備を行なった。
- ◇テレワーク環境の整備と推進を行なった。
- ◇ICTツールを用いて情報資産を管理し、社内共有を推進した。
- ◇動画配信サイト、SNSを活用し、将棋の魅力を伝えた。

3. 普及推進事業

- ◇将棋文化振興支援団体（地方自治体代表者）を集めての交流会を行なった。
日程：令和6年10月12日（土）
会場：栃木県大田原市 「那須野が原ハーモニーホール」
- ◇将棋に関する正しい知識の浸透とそれを有するファンの適切な評価を目的とした将棋検定を行なう。
⇒令和7年2月23日（日）、代替事業として、「観る将のための将棋文化検定クイズ」を駒テラス西参道（東京都渋谷区）において実施した。

◇渋谷区との「伝統文化の発展及び地域の魅力向上のための相互協力協定」に基づき、渋谷区「西参道プロジェクト」は継続して参画した。

4. ライセンス事業

日本将棋連盟の公認を付与し、将棋の普及につなげる新規事業を行なった。

5. 100周年記念事業

◇将棋のまちツアー

「棋士と行くタイトル戦開催地宿泊ツアー」

令和6年8月25日・26日に長くタイトル戦の開催にご協力いただいている常磐ホテル（山梨県甲府市）で棋士と将棋ファンとの交流を行なった。

◇将棋のまち100面指し

日本将棋連盟100周年の周知を目的とし、将棋文化を用いてまちづくりを推進している自治体・地域と協力し、棋士と将棋ファンとの交流を行なった。

- ・令和6年 4月14日（日）山形県天童市にて開催した。
- ・令和6年11月10日（日）東京都渋谷区にて開催した。
- ・令和6年11月24日（日）兵庫県加古川市にて開催した。

◇100周年記念支部還元棋士派遣

日本将棋連盟100周年の周知を目的として、令和6年4月～令和7年3月の期間、日本将棋連盟支部連合会を対象に棋士派遣を実施した。

◇100周年記念免状

日本将棋連盟100周年の周知を目的として、記念免状を発行した。

◇100周年記念グッズ

日本将棋連盟100周年の周知を目的として、記念グッズを制作・配布した。

◇100周年特別記念対局を開催

同じく令和6年に100周年を迎える阪神甲子園球場とコラボレーションし共同で100周年企画を行なった。

日程 令和6年12月8日（日）

場所 阪神甲子園球場

◇地元商店会・町会等との連携事業

①JR 千駄ヶ谷駅構内に横断幕、改札出入口の横側に懸垂幕を掲出した。

横断幕：掲出期間（2024年4月24日～12月27日の248日間）

懸垂幕： 〃 （2024年8月21日～12月29日の131日間）

②創立100周年記念冊子刊行・配布（令和6年4月）した。

③商店会へフラッグ掲出（令和6年9月）はしなかった。

◇創立100周年記念式典・祝う会を開催した。

日程 令和6年9月8日（日）

場所 帝国ホテル東京「孔雀の間」

時間 14時～16時（記念式典）

〃 18時～20時（祝う会）

◇新将棋会館お披露目式・内覧会を開催した。

日程 令和6年9月8日（日）

場所 新将棋会館

時間 10時30分～11時（お披露目式）

〃 11時20分～13時（内覧会）

◇創立100周年誌を令和6年9月刊行した。

1,500部制作

理事会・社員総会等に関する事項

	開催年月日	議事事項
常務会	2024年4月12日	業務の管理、運営に関して
常務会	2024年4月18日	業務の管理、運営に関して
常務会	2024年4月26日	業務の管理、運営に関して
常務会	2024年5月13日	業務の管理、運営に関して
常務会	2024年5月21日	業務の管理、運営に関して
理事会	2024年5月21日	議案 第1号議案 令和5年度決算書類承認の件 第2号議案 令和5年度事業報告承認の件 第3号議案 第75回通常総会開催の件 ① 日時：令和6年6月7日 13時～ ② 場所：AP 西新宿 第4号議案 第75回通常総会議長・副議長選出の件 ① 議長：野月浩貴八段、 副議長：糸谷哲郎八段 第5号議案 第75回通常総会議案の件 ① 令和5年度決算書類承認の件 ② 令和5年度事業報告承認の件 第6号議案 対局規定改定の件 報告
常務会	2024年6月4日	業務の管理、運営に関して
第75回通常総会	2024年6月7日	議案 第1号議案 令和4年度事業報告承認の件 第2号議案 令和4年度決算書類承認の件
理事会 (書面決議)	2024年6月14日	第1号議案 倫理委員会任命の件
常務会	2024年6月18日	業務の管理、運営に関して
常務会	2024年6月27日	業務の管理、運営に関して
常務会	2024年7月3日	業務の管理、運営に関して
常務会	2024年7月17日	業務の管理、運営に関して
定例報告会 (リモートによる)	2024年7月17日	正会員への報告及び質疑応答
常務会	2024年7月25日	業務の管理、運営に関して
常務会	2024年8月14日	業務の管理、運営に関して

常務会	2024 年 8 月 23 日	業務の管理、運営に関して
常務会	2024 年 9 月 6 日	業務の管理、運営に関して
常務会	2024 年 9 月 13 日	業務の管理、運営に関して
定例報告会 (リモートによる)	2024 年 9 月 13 日	正会員への報告及び質疑応答
常務会	2024 年 9 月 19 日	業務の管理、運営に関して
理事会	2024 年 9 月 19 日	議案 第 1 号議案 対局規則・公式棋戦運用規程 改定の件 報告
常務会	2024 年 10 月 1 日	業務の管理、運営に関して
理事会 (書面決議)	2024 年 10 月 1 日	第 1 号議案 主たる事務所移転について 第 2 号議案 従たる事務所移転について
常務会	2024 年 10 月 22 日	業務の管理、運営に関して
常務会	2024 年 11 月 1 日	業務の管理、運営に関して
常務会	2024 年 11 月 19 日	業務の管理、運営に関して
常務会	2024 年 11 月 29 日	業務の管理、運営に関して
常務会	2024 年 12 月 9 日	業務の管理、運営に関して
常務会	2024 年 12 月 20 日	業務の管理、運営に関して
理事会	2024 年 12 月 20 日	議案 第 1 号議案 令和 6 年度中間決算承認の件 第 2 号議案 対局規則・公式戦運用規程改定の件 報告
常務会	2024 年 12 月 27 日	業務の管理、運営に関して
常務会	2025 年 1 月 17 日	業務の管理、運営に関して
常務会	2025 年 1 月 23 日	業務の管理、運営に関して
定例報告会 (リモートによる)	2025 年 1 月 23 日	正会員への報告及び質疑応答
常務会	2025 年 1 月 30 日	業務の管理、運営に関して
常務会	2025 年 2 月 7 日	業務の管理、運営に関して
常務会	2025 年 2 月 14 日	業務の管理、運営に関して
常務会	2025 年 2 月 20 日	業務の管理、運営に関して
常務会	2025 年 2 月 28 日	業務の管理、運営に関して
常務会	2025 年 3 月 18 日	業務の管理、運営に関して
理事会	2025 年 3 月 18 日	議案 第 1 号議案 令和 7 年度事業計画書、収支予算 書、資金調達及び設備投資の見込み

		を記載した書類承認の件 第2号議案 創立100周年事業・東西将棋会館 建設委員会の件 第3号議案 定款変更の件 第4号議案 会員規程改定の件 第5号議案 役員予定者予備選挙規程改定の件 第6号議案 公式棋戦運用規程改定の件 報告
常務会	2025年3月27日	業務の管理、運営に関して